

2020年度 第2回 医療事業推進委員会近畿地区 リーダー育成研修会 報告

開催日：令和3年2月7日（日）
WEB開催

1. 報告事項

1) 第3回医療事業推進委員会報告

- ・医療職域中期目標案・・・数値目標を具体的に立てていく
- ・2021年度の運営案について
- ・研修会関連・・・臨床栄養学術セミナー及び食事療法学会の進捗についての説明があり、特に食事療法学会においては予算上、会員会費5000円で800名の参加での採算となるため参加勧奨をお願いしたい
- ・全国栄養部門実態調査について・・・診療報酬改定の内容の反映を考慮し、診療報酬改定の翌年におこなっていく。2021年6月を調査基準とする予定
- ・病者用食品調査協力・・・消費者庁より特別用途食品拡充に関するアンケート依頼が（公社）日本栄養士会にあった
- ・下半期地区リーダー研修会議題について
- ・介護報酬改定について・・・施設における管理栄養士の複数配置について改定内容にとりこまれる方向で進められている

2) 第4回医療事業推進委員会報告

- ・第40回食事療法学会について・・・2/1現在で872名の参加でほぼ目標参加者数に到達した。参加者では20代の参加者が少ないため今後の検討課題となる
- ・第41回食事療法学会について・・・新潟県での開催予定であったがコロナウイルス感染症を考慮し、来年度も集合型のみは難しいためオンライン又は集合型+オンラインで進めていく。また、都道府県主体か日栄主体かについても検討していく
- ・2020年度業務量調査（速報）・・・501施設、2635名が回答（回収率69.1%）。詳

細は3月の食事療法学会で報告

- ・2021年度実態調査・・・6月実施、7月末回収で進めていく。平成26年に調査対象施設を調べたがその後、新規に増えた病院や連絡が取れない病院もあるため、一度対象病院の洗い出しをおこなう
- ・生涯教育について・・・実務者研修の担当を医療の専門管理栄養士でおこなっていく臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブックの改定も検討する
- ・相談会（コンサルテーションデスク）の開催・・・診療報酬等での会員からの相談窓口の設置を検討していく
- ・データヘルス改革について・・・医療、介護、保健で共通の言語でデータ化し運用することが国で進められている。医療でも栄養関連の用語の集約、統一化が今後求められる

2. 協議事項

1) 今後の医療職域のビジョンについて

- ・令和版新ビジョンについての方向性や会員への伝達方法について協議した

2) 会員増対策について

- ・2029年に6万人の団体を目指すための具体的な取り組みについて協議した
- ・非会員や学生の会員への取り込みや会員離れしない会員益の取り組みなどの意見があった

3) 2021年度実態調査について

- ・6月に実施予定されている2021実態調査の案件について、診療報酬獲得のための基礎となる調査項目について協議した
- ・栄養食事指導料や加算食の範囲拡大や病院規模別、領域別の質問項目の設置などの

意見があった

- 4)令和4年度診療報酬改定および同時改定へ繋ぐ現状の課題とその対策について
 - ・診療報酬改定に関して、課題抽出と解決方法について協議した
 - ・病棟配置に関することや専門管理栄養士の活用に対することなど現状の問題点を含め様々な意見があった
- 5)専門管理栄養士取得者増への取り組みについて
 - ・医療全体で2029年までに3000名をめざす具体的な方策について協議した
 - ・専門管理栄養士が診療報酬に反映されるようにすることや専門管理栄養士を取得しやすい環境整備（例えばWEB研修会）などの意見があった
- 6)認定管理栄養士取得者増への取り組みについて
 - ・医療全体で500名をめざす具体的な方策について協議した
 - ・認定管理栄養士を取ることへのメリットを明らかに広報していくことやeラーニング

化をさらにすすめるなどの意見があった

- 7)医療型認定栄養ケア・ステーション設置勸奨対策について
 - ・診療報酬改定や介護報酬改定において栄養ケア・ステーションの評価が拡大している。医療職域でもこれらの評価に対応すべく、設置勸奨をすすめるにあたり課題を抽出し、課題解決に向けて協議した
 - ・現在稼動している医療型認定栄養ケア・ステーションの実情を知ることからまず始める必要があるといった意見や医療型認定栄養ケア・ステーションの具体的な業務内容についての意見があった
- 8)保健・医療・介護情報利活用に係る用語統一について
 - ・全国で保健・医療・介護情報を確認できる仕組みの拡大を国の方で進めており、今後、医療においては電子カルテ情報の標準化や栄養診断、食事形態の用語の統一が必須となる可能性があるため項目をあげての整理を進めていく

(文責 医療 内菌雅史)